

令和7年度

学校評価(自己評価)報告書

岩見沢市立中央小学校

□ 学校の概要

推進校	岩見沢市立中央小学校							
校長名	加藤 敦				教職員数		40名	
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級数	2	2	2	2	2	2	5	16
児童数	46	54	55	46	56	52	23	333
住所	〒068-0027 岩見沢市7条西16丁目7-3							
電話	0126-22-0285							
FAX	0126-22-9901							
UR-L	https://www.iwamizawachuo-cs.com							
e-mail	chuos@edu.hamanasu.com							

I 学校教育目標

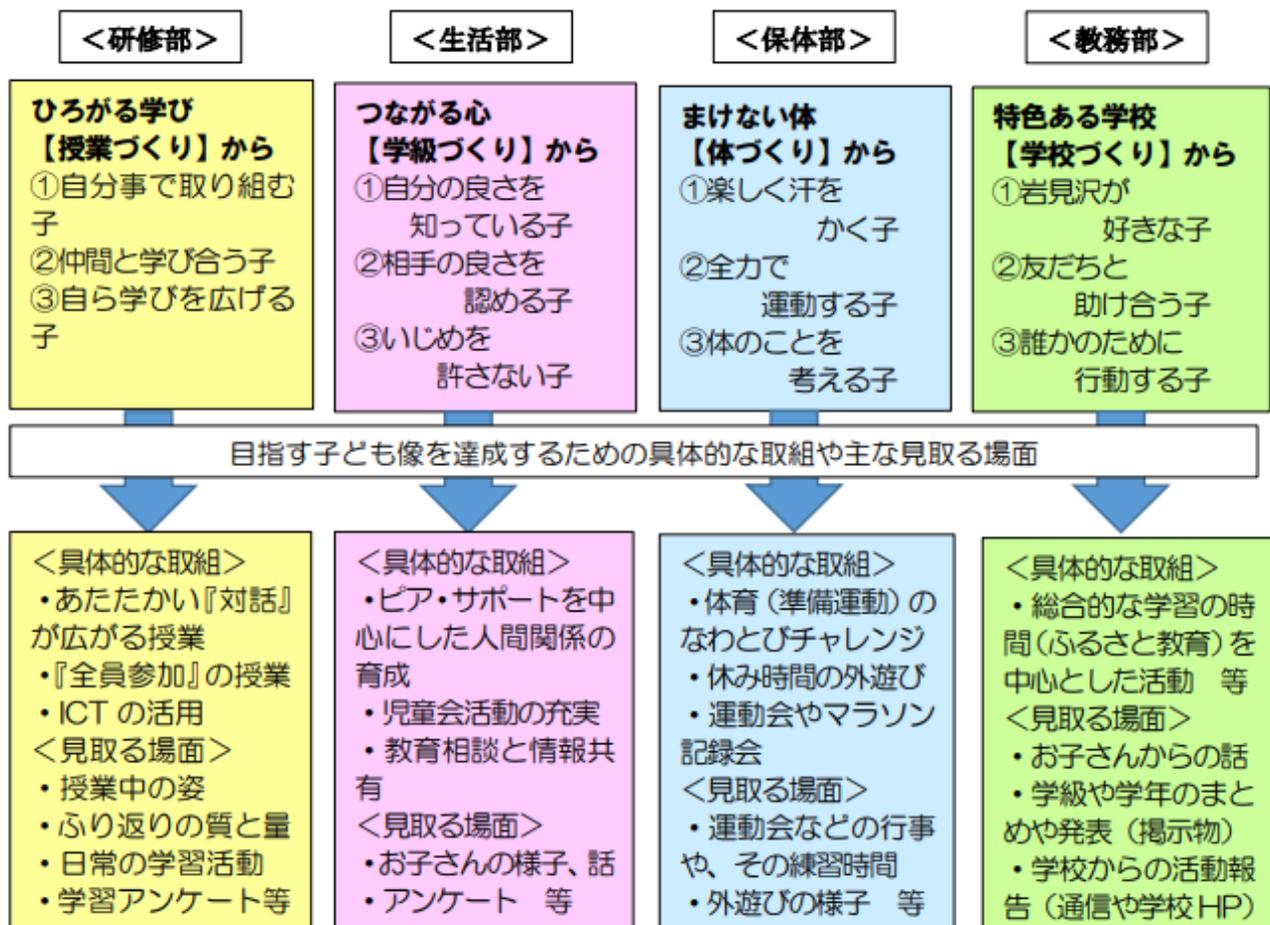
基礎基本を確実に習得し、それらを活用して自ら学び自ら考え、主体的に判断し行動する能力を身につけた子供の育成



自らを律し他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心、正義を愛する心等、豊かな人間性を身につけた子供の育成

激動する社会を、生涯にわたってたくましく生きぬく健康や体力を身につけた子供の育成

II 中期及び単年度の具体的目標



令和7年度学校経営の重点

『自分ごと（自分の事）』となる教育活動や分掌業務の推進

令和7年度も、引き続いて同じ学校経営コンセプトとする。

このコンセプトは、全ての教職員が学校での役割や日々の取組を自分自身の判断や意識のもとで進めていくことを意味する。これにより、学校全体の教育活動や運営が一人ひとりにとって身近で主体的なものとなると同時に、その姿は子どもたちの学びや成長に直接的な影響を与えている。具体的には、以下のような姿勢を大切にしていく。

- ① 何事にも「自分ごと」として関わる
 - ・学校全体の目標や取組を他人任せではなく、「自分の力でどう関わり、貢献できるか」を考える姿勢をもつこと。
- ② 主体性を発揮する
 - ・分掌業務や教育活動を単なる義務として行うのではなく、創意工夫や意欲をもって取り組み、成果を共有すること。
- ③ 個の意識を大切にしながらもチームで協働する
 - ・各自が自分の役割を明確に理解し、積極的に責任を果たす中でも、横のつながりを大切に、チームとしてより良い成果を目指すこと。

Ⅲ 各種具体的な計画

- * 学校経営の具体的な内容～本年度の視点、重点的に取り組むこと等

『支え合い・助け合う』意識を全教育活動で育てる

本校に対する評価・評判を外部の方から伺うとき、校長として最も嬉しかった言葉は、「中央小は玄関に入ったときから雰囲気が違う。教室に入った瞬間に“これから素晴らしい授業が始まるに違いない”と感じる。結果、その通りになる。」というもので、複数の方から同様の感想を聞いている。このような素敵な雰囲気を醸し出している要因は何か。

それは、教職員の人柄や子どもたちの素直さ等たくさん考えられるが、間違いなく言えるのは、数年来続けてきている「ピア・サポート活動」の成果である。

この現在の状況を可能な限り持続し、さらに良いものにしていくため、ピア・サポートに関わる活動（MLA：マルチレベルアプローチ）を充実させていく必要があると考えている。今年度、まずは以下の3点を教職員に意識させる。

- ① 「ピア・サポートとは何か」「何のために取り組むのか」「どういう状態を目指すのか」という根本を全員で確認
- ② 『岩見沢型ピア・サポート』（MLA）への理解を深め、積極的に導入
- ③ 保護者・地域へのピア・サポートに関わる活動の発信と協力の要請

例えば授業では、これまでもピア・サポートで培った「傾聴・受容・共感」を活用してきた。そして、授業づくりとピア・サポートを両輪とした学校づくりを進めてきた。今後は、さらに意識

を高めて『授業と生徒指導の一体化』を行い学力と同時に全人的成長をはかるとともに、その他の全ての教育活動においても『支え合い・助け合う』視点を大切にしていく。

『教室は間違ってもいいところ』の徹底 ～率先する大人であれ～

子どもが学びや生活に対し、自分ごととして主体的に取り組んでいくためには、教職員からの声がけだけでは足りない。「もし、間違ったり失敗したりしたらどうしよう」という子どもたちの不安を払拭して、チャレンジしやすい環境をつくる必要がある。

本校では、各教室の入り口に『教室はまちがうところだ』の掲示物がある。このことについて、昨年度吉永教育長より「『間違うところだ』より『間違ってもいいところ』の方が子どもたちに意味が伝わるのではないか」という助言をいただきました。確かに、掲示している意味合いは、子どもたちに対しては「心配しなくてもいいよ。失敗したって大丈夫。みんなは受け止めてくれるよ。」であり、教員に対しては、「正解を求めることが全てじゃない。そのことを忘れずに子どもと接していこう。」である。そこで、表現を『間違うところだ』から『間違ってもいいところ』に変更する。教室は、子どもたちが1日のうちの大半を過ごす場所である。子どもたちに対しては、岩見沢型ピア・サポートの取組を中心にして、教室が安心して過ごせる場所となるようにしていく。

また、子どもたちの中には、自分がどう思われるのか不安だから目立つのを嫌がったり、周りから浮くことを恐れたりする子が少なからずいる。言われたことはきちんとこなすけど、それ以上のことはやらない子も増えてきているように感じる。そういう子たちに対し、教職員が精神論的な言葉がけで気持ちや意欲を高めようとしてもなかなかうまくいかない。

精神面ではなく、子どもたちの行動に着目して「この部分が良かったね」と評価することで自信につなげていく。また、大人が武勇伝を語るのではなく、挑戦し、失敗し、復活する姿を示すことで、それを見た子どもの心は必ず動く。そういう機会を意図的に設けていくようにすることも大切である。

【知：ひろがる学び 「学ぶ力」づくり】

- (1) 「中央小 授業づくりガイドブック」及び校内研修による「資質・能力の育成を目指す授業づくり」をふまえ、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、全ての子どもの可能性を引き出す「主体的・対話的で深い学び」の具現化を図る。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の基礎となる自ら学習に取り組む力と基礎的・基本的な資質・能力を日々の学習を通して確実に定着させる。
- (3) ピア・サポートで培った「傾聴・受容・共感」の信頼関係に基づく学習集団づくりを推進する。
- (4) 一人一台端末を効果的に活用した授業づくりを推進する。「タブレットを使って授業する」

から「目指す授業をするために、タブレットを使う」段階を目指す。

- (5) 「情報活用能力育成の系統表」をもとに、学年段階に応じたスキルやプログラミング的思考を身に付ける。
- (6) 目指す子ども像や育成する資質・能力を明確にし、評価基準や評価方法の見直し、各種テストの実施を通して、指導と評価の一体化を図り、適正な評価に努める。
- (7) 校内研修の充実、児童による授業評価、標準学力テストの結果分析等の活用により、効果的な授業改善と授業形態の工夫に努める。
- (8) 読書活動の充実を図り、学力の基礎となる言語活動の工夫・改善に努める。
- (9) 外国語のコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、実際に英語が使える子どもの育成に向け、ALTの有効活用を図るなど外国語教育の充実を努める。また、外国語の背景にある文化を理解し、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

【徳：つながる心 「人」づくり】

- (1) 基本的な生活習慣の定着のもとに、望ましい社会規範など公共の精神を養う。
- (2) 岩見沢型ピア・サポートの実践を通して、互いの良さや人格を尊重する態度、思いやりの心の育成に努めるとともに、支持的・親和的な集団づくりに努め、失敗を恐れずにチャレンジできる風土をつくる。
- (3) QUテストの結果分析を活用し、意図的・計画的な学級づくりを行うとともに、共感的理解や受容的態度のもと、子どもの自己指導能力の育成に努める。
- (4) 「特別の教科 道徳」の充実を努め、豊かな情操と内面に根ざした道徳性を養い、道徳的な判断力、心情、実践的意欲と態度を育てる。
- (5) 学級活動や総合的な学習の時間「共友タイム」を通して、共生や多様性を学び、互いの良さや人格を尊重する態度、思いやりの心の育成に努める。
- (6) 特別支援教育の充実のために、個のニーズにあった教育活動を計画・実践し、自立をめざした指導に努める。
- (7) 全学級で個人に丁寧に目を向け、特性や困り感に応じた特別支援的な教育的配慮と指導を行う。
- (8) 不登校や教室へ入れない児童等への組織的対応の確立や個別指導の充実を図る。
- (9) 生命尊重や規範意識の高揚など、いじめや問題行動を許さない風土づくりに努める。

【体：まけない体 体づくり】

- (1) 自らの健康、安全について関心を高め、調和のとれた心と体で安全な生活を営むために必要な知識と態度の育成に努める。
- (2) 日常的な体力づくりや体育の授業にバルシューレを位置づけ、運動への関心を高め体づくりと体力向上に努める。
- (3) 校舎内外の清掃・美化に対する関心を高め、清潔で過ごしやすい生活環境づくりに取り組む態度の育成に努める。

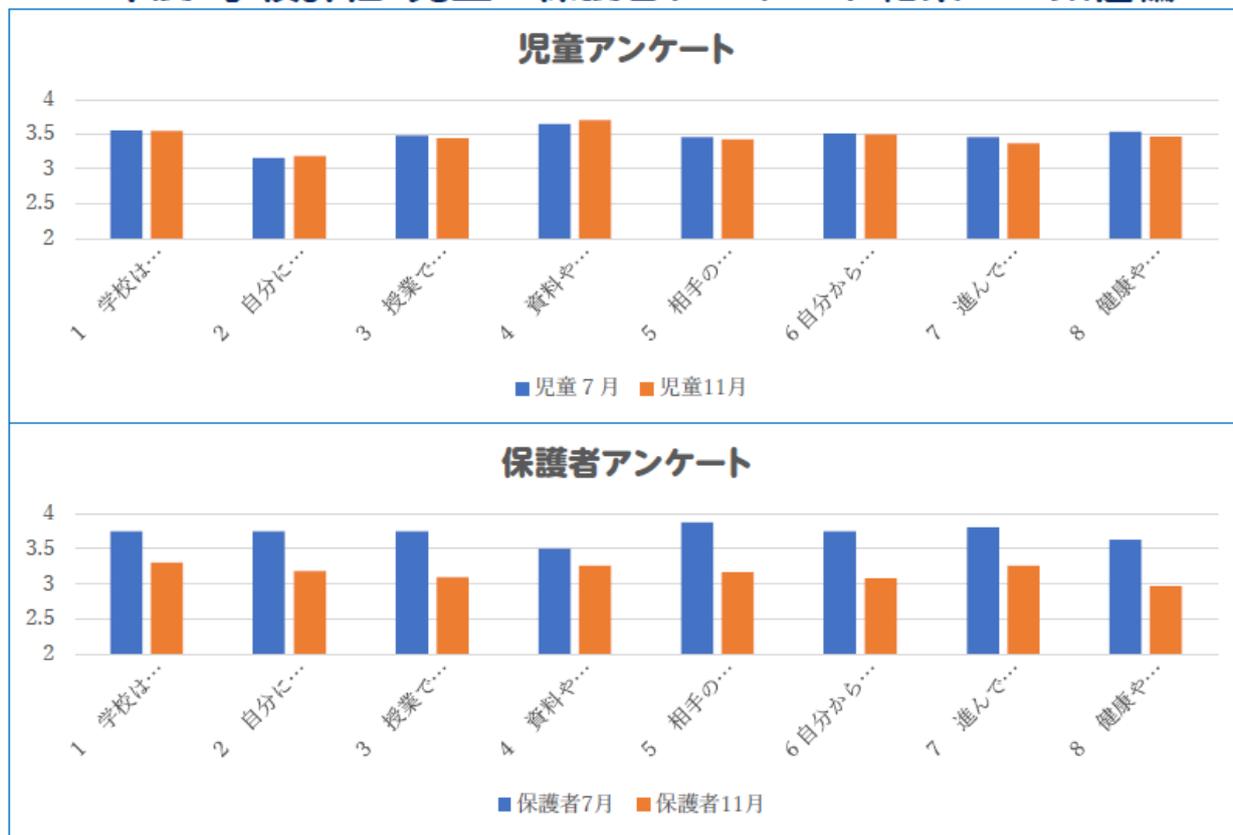
- (4) アレルギー対応の充実と危険を回避できる能力の育成に努める。
- (5) 薬物乱用防止、性の教育、食育の推進に努める。

【地域・保護者とともにある学校づくり】

- (1) 「社会に開かれた教育課程」を視点に、本校の教育目標達成に向けた教育活動の推進と適切な進行管理に努める。
- (2) 総合的な学習の時間（ふるさと教育・キャリア教育・共に学び合う教育等）を通して、地域社会との関わりに目を向け、地域を学ぶとともに、自己の生き方や夢・希望の実現について考え、地域と積極的にかかわる態度を育てる。
- (3) 外部・地域人材や北海道教育大学岩見沢校との連携を強化し、本物に触れる教育活動を推進する。
- (4) 中央小学校 PTCA の活性化を図り、子どもの幸せと健全な成長を図ることを目的とし、その達成に向けて協力して活動する。
- (5) 光陵中学校区学校運営協議会の活動を推進し、コミュニティ・エリアとして「地域とともに歩む学校」と「地域づくり」に協働して取り組む。

IV 各種評価結果と改善策

R7年度 学校評価 児童・保護者アンケート結果 ～数値編～



<評価項目>

- 1 学校は楽しい
- 2 自分にはよいところがある
- 3 授業では、自分の考えを持ち、友だちとの対話を大切に学習している。
- 4 資料や iPad を正しく活用して学習している。
- 5 相手の気持ちを考えて声をかけたり行動したりしている。
- 6 「おはよう」「ありがとう」など、自分からすすんであいさつしている。
- 7 休み時間や体育は、進んで体を動かしている。
- 8 健康や安全、食事について考え、大切にしようとしている。



本年度も、児童・保護者の皆様にご協力いただき、学校評価アンケートを実施しました。ご協力ありがとうございました。アンケートは4段階評価で、4が「とてもそう思う」、3が「まあそう思う」とし、平均値で結果をまとめています。3.2を8割の基準として見たところ、多くの項目で肯定的な評価をいただきました。

アンケートの項目「1・学校は楽しい」「2・自分にはよいところがある」は、光陵中学校区 4校で同じ項目の質問をしています。肯定的回答を1は90%以上、2は80%以上を目指していますが、本校では1が94.5%、2が84.1%と目標値を達成しています。(11月児童アンケート)

児童の回答では、「学校は楽しい」「資料や iPad を活用している」などの項目が高く、どの教科でも主体的に学ぶ姿が見られます。特にICTを活用した学習への満足度が高く、楽しみながら学ぶ姿勢が定着していることがうかがえます。

一方、「相手の気持ちを考えて声をかけたり行動したりしている」「進んで体を動かしている」等の項目はやや低めで、思いやりの気持ちや健康意識をさらに育てていくことが今後の課題といえます。

保護者の回答では、7月に比べ11月は全体的に数値が下がる傾向が見られました。これは7月の回答数が16と少なかったことが原因と考えます。11月も145で過半数を超えておらず、今後学校評価アンケートの取り方について、多くの保護者の方に協力いただけるよう改善を図る必要があると思われます。また、「授業の様子」や「子どもの健康・安全」に対する評価が基準ぎりぎりとなっています。学校としても、家庭と連携を深めながら、学習や生活の様子をより分かりやすく伝えていく必要があると感じています。

今回の結果をもとに、子どもたちがさらに安心して学び合い、自分のよさを伸ばしていけるよう、今後も学校全体で取り組んでまいります。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

R7年度 学校評価 児童・保護者アンケート結果 ～記述編～

自由記述欄には、励ましのお言葉とともに、今後の教育活動へのご意見やご提案を多数いただきました。主な内容と学校の考えをお知らせします。

1 地域とのかかわり・行事について

【主なご意見】

- ・知らない人への声かけなど、防犯面からあいさつ運動の在り方が心配であり、校内中心でもよいのではないか。
- ・ギャザリングやラジオ体操、盆踊りなどを、学校と地域がもっと連携して大きく行えないか。

【学校の考え・対応】

あいさつや地域との交流は大切にしつつも、防犯面への配慮は欠かせません。今後も安全面を第一に考え、活動の範囲や方法を見直していきます。また、地域行事については、町内会や関係機関と相談しながら、児童が参加しやすく、双方に無理のない形での連携を検討していきます。

2 家庭との連携・情報共有について

【主なご意見】

- ・子どもの話題が少なくなり、参観日や年1回の個人面談だけでは普段の様子が分かりにくい。希望者向けに、もう少し様子が分かる機会や仕組みがあるとよい。

【学校の考え・対応】

お便りや学年だより等で情報発信に努めていますが、「もっと知りたい」という思いを改めて受け止めました。今後は、学習や行事の様子を伝える工夫や、必要に応じて個別相談や面談を設定しやすくする仕組みづくりを進めていきます。

3 児童理解・指導の在り方について

【主なご意見】

- ・一人一人の気持ちや考えをていねいに聞き取り、子どもの言葉を大切にしてほしい。
- ・注意のことがきつく感じられ、相談しづらくなることが心配である。

【学校の考え・対応】

児童の思いに寄り添って指導することは、本校が大切にしているところです。今回のご意見は教職員で共有し、指導の言葉かけや表情、受け止め方を見直す機会としました。今後も、子どもが安心して相談できる関係づくりに努めます。気になる点がありましたら、遠慮なく学校へお知らせください。

4 子どもたちのアイデアや成長を生かす活動について

友達のよいところを伝え合う取組や、親切フラッグ、成長を実感できる活動、「やりたいことBOX」、雪や紙芝居を生かした遊びなど、多くの楽しいアイデアも寄せていただきました。すぐにすべてを実施することは難しい面もありますが、学級・学年や行事の中で取り入れやすいものから、可能な範囲で工夫していきます。

5 温かい励ましのお言葉について

「丁寧なご指導への感謝」「子どもが学校を楽しみにしている」「先生がよく見て認めてくれている」など、多くの励ましのお言葉も頂戴しました。教職員一同、大きな力をいただいております。

お寄せいただいたご意見は、今後の学校・学級経営に生かしてまいります。今後もお気づきの点がありましたら、お気軽にご相談ください。保護者・地域の皆様とともに、子どもたちが安心して学び、成長できる学校づくりに努めてまいります。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

R7年度の学校評価について

R7年4月21日

主幹 富樫

1. 学校評価の目的とは

- (1) 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- (2) 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者・地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- (3) 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

2. 今年度の学校評価について

○ 今年度の学校評価

【1】自校評価

①学ぶ力づくり ②人づくり ③体づくり の3領域について、それぞれ具体的なゴールを示すとともに、その達成度及び方策について児童、職員、保護者からアンケートをとり、分析する。

【2】学校運営協議会（CS）による評価（隔年評価 R4実施・R6・R8予定）

上記自己評価の向上に向けた取組を学校運営協議会で説明するとともに、地域参観日や各種行事等、様々な場面で委員より評価を受け、改善にいかす。

○ 自校評価

「学ぶ力づくり」「人づくり」「体づくり」の3領域で取り組んでいる「目指す子ども像」の実現に向け、それを見取るためのアンケートと達成目標を明確に示し、その実現に向けて、計画的に取り組んでいくこととする。アンケートは、以下の9項目を各段階で実施する。

【学校教育目標の具現化・R7年度 目指す子ども像】

ひろがる学び

【学ぶ力づくり】

- ① 仲間と学び合う子
- ② 自ら学びに向き合う子

つながる心

【人づくり】

- ① 思いやりをもち、互いを尊重し合う子
- ② あいさつできる子

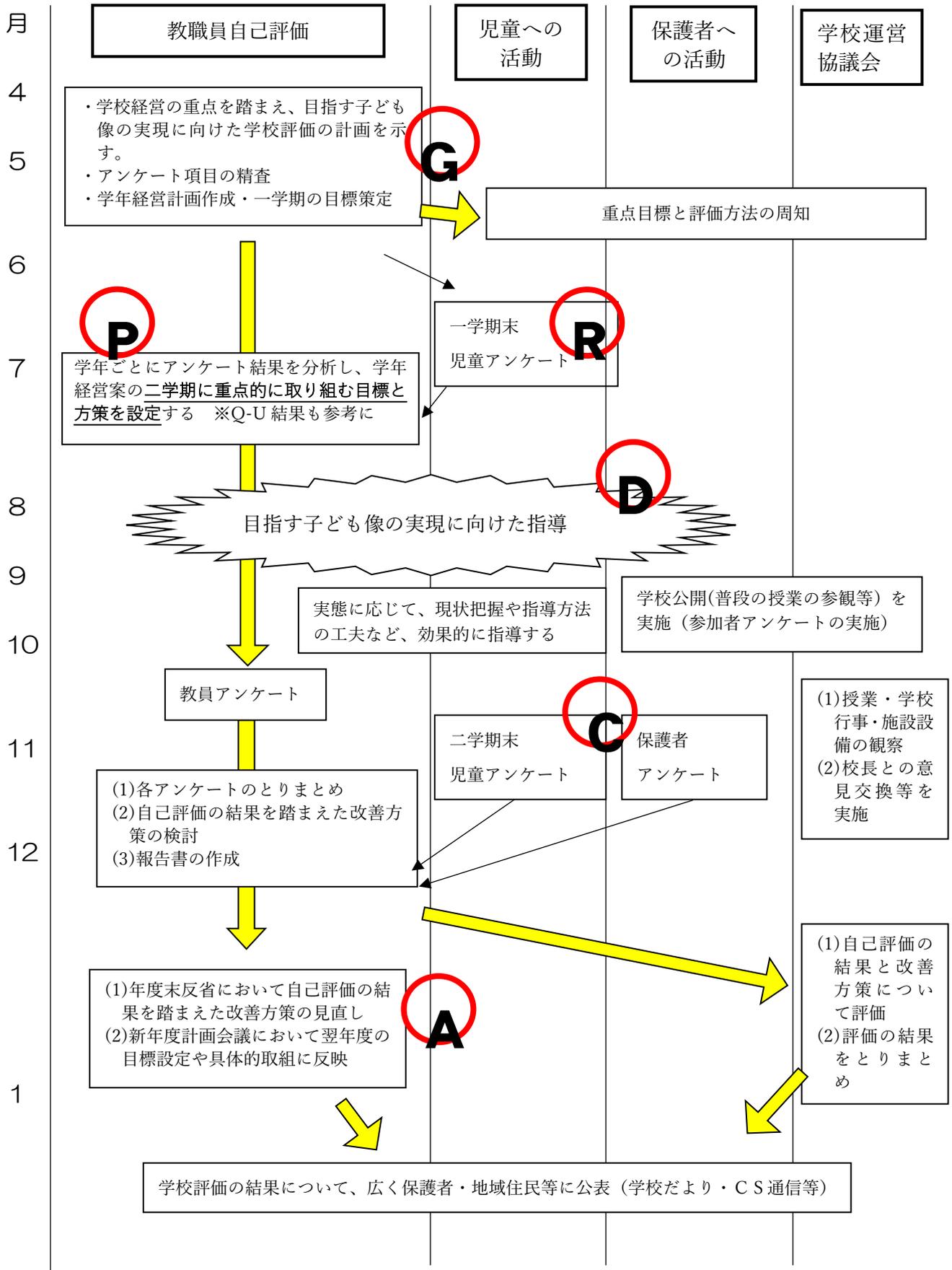
まけない体

【体づくり】

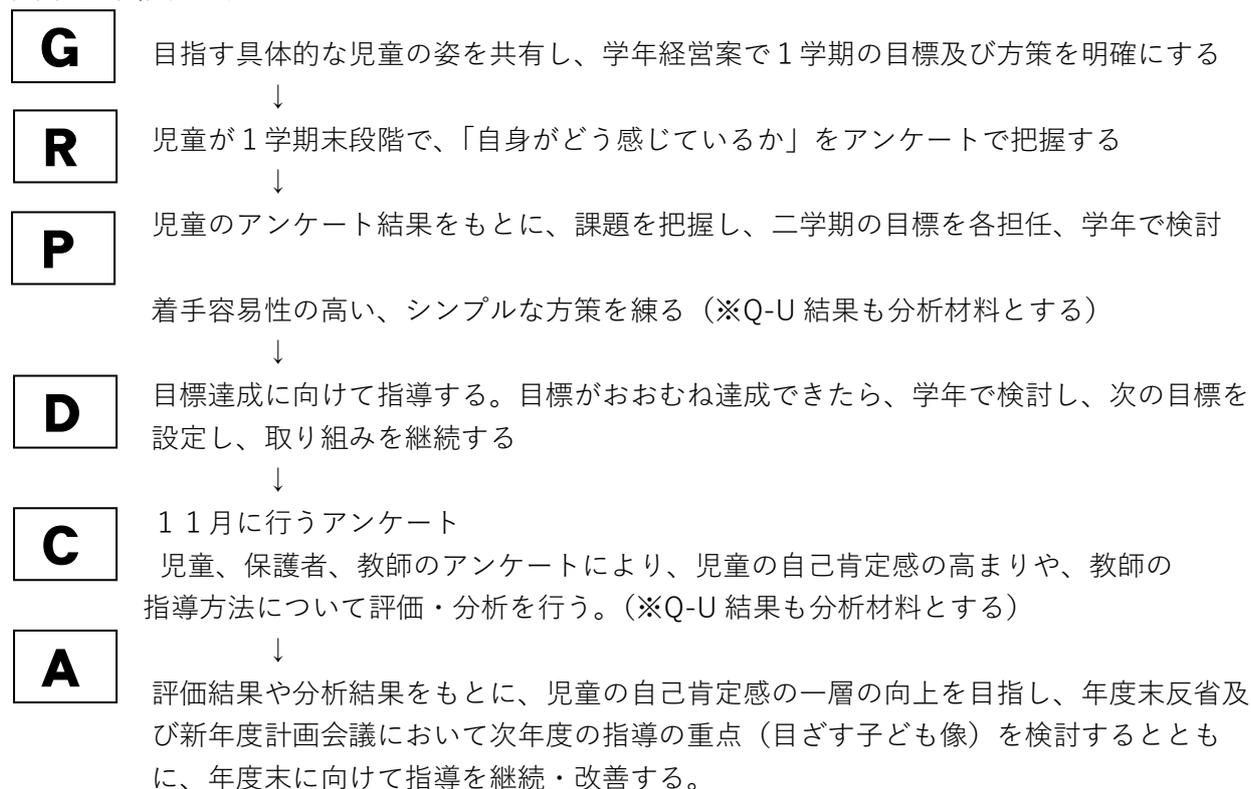
- ① 進んで体を動かす子
- ② 健康を考え、食事をできる子

★今年度4校接続の関係で、学校評価(児童評価は必須)に「学校は楽しい」「自分にはよいところがある」を追加し、「学校は楽しい」が90%以上、「自分にはよいところがある」が80%以上を目指すことになりました。

R7年度 学校評価の流れ



自校評価の流れ



3. 推進日程

4月21日(月) 職員会議で周知（評価方法及び日程の連絡）

↓ 5月12日(月) 分掌会議でアンケート項目の意見集約

5月21日(水) 学校運営会議で方法及びアンケート項目の決定

5月末～6月 PTCA 役員会で説明

↓ **説明後、文書等で保護者へ学校評価について周知**

6月下旬～ 学期末アンケート配付

↓ 7月24日(木) Q-U研修

アンケートとQ-Uの結果から後期の指導計画をたてる

8月29日(金) 中間評価結果の振り返り提出

↓

指導計画に沿って指導

2学期参観日等で外部授業評価を実施する

- 1 1月下旬 児童・保護者・教職員アンケート配付
- 1 2月上旬 アンケート結果をもとに年度末反省の実施
- 1 2月8・9日 年度末反省臨時職員会議で次年度の「子ども像」協議
- 1 2月～1月 学校だよりで、アンケート結果の公表
- 1月19日（月）定例職員会議で新年度経営方針の提示
- 2月2・3日 新年度計画会議
- 2月中 P T C A 役員会にて学校評価のまとめ及び新年度経営方針の説明を行う

職 協議 **R7 年度 学校評価アンケート項目等について**

2025.05.26 主幹

協議 ○評価項目・取組の重点・評価方法の確認

1. 児童アンケート項目<前期6月下旬・後期11月下旬 予定>

口めざす子ども像

ひろがる学び

【学ぶ力づくり】

- ① 仲間と学び合う子
- ② 自ら学びに向き合う子

つながる心

【人づくり】

- ① 思いやりをもち、互いを尊重し合う子
- ② あいさつできる子

まけない体

【体づくり】

- ① 進んで体を動かす子
- ② 健康を考え食事をできる子

【学ぶ力づくり】

- ① 授業で自分の考えを持ち、友達との対話を大切に学習している。
- ② 資料や iPad を正しく活用して学習している。

【人づくり】

- ① 相手の気持ちを考えて声をかけたり行動している。
- ② 「おはよう」「ありがとう」など、自分からすすんであいさつしている。

【体づくり】

- ① 休み時間や体育では、進んで体を動かしている。
- ② 健康や安全、食事について考え、大切にしようとしている。

【4校共通項目】

- ① 学校は楽しい。
- ② 自分にはよいところがある。

2. 具体的取組の重点

★自己理解力の育成

★ピア・サポートの推進

★体力づくりの活用

令和7年10月20日

中央小保護者各位

岩見沢市立中央小学校
校長 加藤 敦

学校評価 保護者アンケートについて(お願い)

晩秋の候 皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を頂いておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、本校は今年度「つながる心・ひろがる学び・まけない体(基礎基本を確実に習得し、それを活用して自ら学び自ら考え、主体的に判断し行動する能力を身につけた子供の育成)」を目標とし、全職員が一体となって教育活動を進めているところです。

1 学期末に、1 学期末参観日や日頃の様子から、保護者の皆さまから見たお子さんや学校についての評価をいただきました。ご協力いただきました保護者の皆様、ありがとうございました。今回は 2 学期末評価として、改めて広くご協力いただければと思います。学校としては、いただいた結果を受けて、今後の改善に活かしていきたいと考えます。尚、ご不明な点がありましたら、学校(22-0285)までお問い合わせください。

記

- 1 依頼内容** 保護者アンケート (児童ごとの回答をお願いします)
- 2 回答期日** **11月4日まで**
- 3 回答方法** 回答は4択で、④→とてもそうおもう
③→まあそう思う
②→あまりそう思わない

保護者学校評価アンケート（11月）

★ 該当の箇所に○をつけてください。

お子さんの学年・クラス （ ）年 （ ）組

- 1 お子さんは学校が楽しいと思っている。
（とてもそう思う・まあそう思う・あまりそう思わない・まったく思わない）
- 2 お子さんは自分にはよいところがあると思っている。
（とてもそう思う・まあそう思う・あまりそう思わない・まったく思わない）
- 3 お子さんは授業では、自分の考えを持ち、友だちとの対話を大切に学習している。
（とてもそう思う・まあそう思う・あまりそう思わない・まったく思わない）
- 4 お子さんは、資料や iPad を正しく活用して学習している。
（とてもそう思う・まあそう思う・あまりそう思わない・まったく思わない）
- 5 お子さんは、相手の気持ちを考えて声をかけたり行動している。
（とてもそう思う・まあそう思う・あまりそう思わない・まったく思わない）
- 6 お子さんは「おはよう」「ありがとう」など、自分からすすんであいさつしている。
（とてもそう思う・まあそう思う・あまりそう思わない・まったく思わない）
- 7 お子さんは休み時間や体育は、進んで体を動かしている。
（とてもそう思う・まあそう思う・あまりそう思わない・まったく思わない）
- 8 お子さんは健康や安全、食事について考え、大切にしようとしている。
（とてもそう思う・まあそう思う・あまりそう思わない・まったく思わない）